JAF東北ダートトライアル選手権第2戦　JMRC東北ダートトライアルチャンピオンシリーズ第2戦　JMRC全国オールスターダートトライアル選抜第2戦　2019年スーパートライアル IN 切谷内［JAF公認No.2019-6204］

開催日：4月28日　開催場所：サーキットパーク切谷内　格式：準国内　主催：MSCはちのへ［クラブ登録No.加盟02024］

フォト＆レポート／ JAF スポーツ編集部

ホームコースで順当勝ちを収めたS1クラスの今隆志選手。8月、地元開催の全日本戦に向けて順調な滑り出しを見せた。

今季初参戦の今隆志インテグラ、貫禄のウイニングランで優勝

4月14日、福島県のエビスサーキットで開催された今年のダートトライアル東北地区戦はその2週間後の4月28日、青森県のサーキットパーク切谷内に舞台を移してシリーズ第2戦が開催された。

今年の東北地区戦は9月29日、丸和オートランド那須で開催される最終戦まで全8戦が組まれるが、内この切谷内では半数の4戦が開催される。今年もシリーズの行方を左右する舞台となることは間違いない。

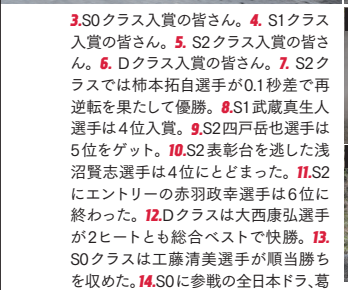
その切谷内の初戦には39台がエントリー。クローズドの2クラスを含め、6クラスで熱戦が展開された。今季初戦ということもあってか、コースレイアウトも、外周と内周を程よくミックスさせたオーソドックスな設定が採られ、2WD車で1分40秒台前半、4WD車で1分30秒台前半といった、今季の『肩慣らし』には最適な長さとなった。

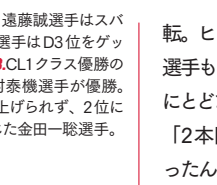
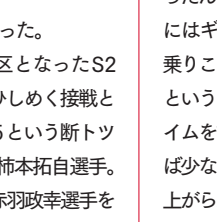
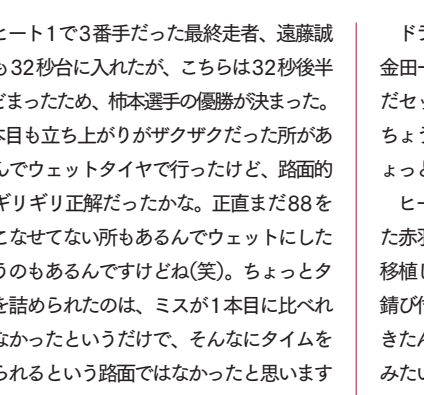
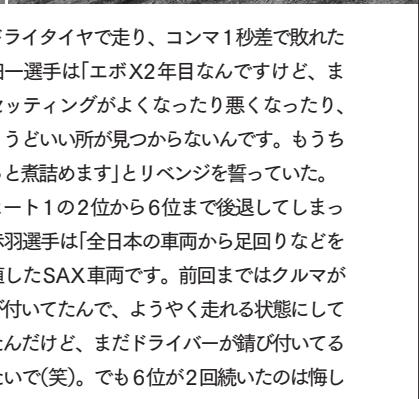
フィット、スイフトが参戦したS0クラスは、全日本戦の調整も兼ねて参戦の工藤清美選手がヒート2も0.5秒、タイムを上げて1分39秒87で優勝。2番手には坂本貴選手が入り、工藤ホンダのGK5フィットが1-2を飾った。

S1クラスはCJ4Aミラージュの武蔵真生人選手がヒート1、1分42秒48まで暫定ベストを引き上げるが、続くラストゼッケン、今隆志選手のDC2インテグラが40秒88をマークして、首位で折り返す。ヒート2に入ると各選手、続々とタイムアップするが、今選手のタイムには及ばず。逆転が期待された武蔵選手もタイムダウンに終わってしまう。

ウイニングランとなった今選手は39秒55までタイムを詰めて優勝。ラストゼッケンの貫禄の走りを見せた今選手は、「今年初のダートラだったんで1本目は探り探りだったんですけど、2本目はドライでも行けると思ったので、履き替えて走りました。今日は規制のパイロンがあって難しいセクションもありましたが、88もいい感じで効いてくれて、大きなミスもなく、いい感じで走れたので、タイム差もつけら

1. S0で2位入賞の坂本貴選手。*2.* EP91を駆る佐々木健一選手はS1クラス2位入賞。



3.S0クラス入賞の皆さん。**4.** S1クラス入賞の皆さん。**5.** S2クラス入賞の皆さん。**6.** Dクラス入賞の皆さん。**7.** S2クラスでは柿本拓自選手が0.1秒差で再逆転を果たして優勝。**8.**S1武蔵真生人選手は4位入賞。**9.**S2四戸岳也選手は5位をゲット。**10.**S2表彰台を逃した浅沼賢志選手は4位にとどまった。**11.**S2にエントリーの赤羽政幸選手は6位に終わった。**12.**Dクラスは大西康弘選手が2ヒートとも総合ベストで快勝。**13.** S0クラスは工藤清美選手が順当勝ちを収めた。**14.**S0に参戦の全日本ドラ、葛西一省選手は3位にとどまった。**15.**SA2遠藤誠選手はスバル勢最上位の3位を獲得。**16.**前田直春選手はD3位をゲット。**17.**S1で3位入賞の菅谷雅人選手。**18.**CL1クラス優勝の五十嵐俊弘選手。19. CL2クラスは中村泰機選手が優勝。**20.**D須藤正人選手はヒート2、タイムを上げられず、2位にとどまった。**21.**S2で僅差の2位に甘んじた金田一聡選手。

れたのかなと思います」と振り返った。

参加13台と今回最大の激戦区となったS2クラスはトップ5が1秒の間にひしめく接戦となった。ヒート1、1分32秒75という断トツのタイムでトップに立ったのは柿本拓自選手。関東から遠征してきた2番手の赤羽政幸選手を1.5秒も引き離し、好調をアピールする。

ヒート2に入ってもこの32秒75のタイムが壁として立ちはだかり、ラスト3台の走りを待つこととなったが、その一番手の金田一聡選手が32秒53を叩き出して遂にベストを更新する。だが続く柿本選手がすかさず、32秒42で再逆転。ヒート1で3番手だった最終走者、遠藤誠選手も32秒台に入れたが、こちらは32秒後半にとどまったため、柿本選手の優勝が決まった。

「2本目も立ち上がりがザクザクだった所があったんでウェットタイヤで行ったけど、路面的にはギリギリ正解だったかな。正直まだ88を乗りこなせてない所もあるんでウェットにしたというのもあるんですけどね(笑)。ちょっとタイムを詰められたのは、ミスが1本目に比べれば少なかったというだけで、そんなにタイムを上がられるという路面ではなかったと思いますね」と柿本選手。

「今日はインを離すとタイムに大きく影響する所が何か所かあって、しかも傾斜が付いている所だったので、その辺も見越して合わせて行くのがポイントだったと思います」と攻略法の一端を教えてくれた。

ドライタイヤで走り、コンマ1秒差で敗れた金田一選手は「エボX2年目なんですけど、まだセッティングがよくなったり悪くなったり、ちょうどいい所が見つからないんです。もうちょっと煮詰めます」とリベンジを誓っていた。

ヒート1の2位から6位まで後退してしまった赤羽選手は「全日本の車両から足回りなどを移植したSAX車両です。前回まではクルマが錆び付いてたんで、ようやく走れる状態にしてきたんだけど、まだドライバーが錆び付いてるみたいで(笑)。でも6位が2回続いたのは悔しいので、次は3位以上を目標に頑張りたいですね」とこちらもリベンジを宣言していた。

Dクラスは今季から全日本SC2クラスへ移籍の大西康弘選手が調整を兼ねて参戦。1分30秒99というタイムで貫禄のオーバーオールウィンを飾った。